

## 地域医療連携懇話会を開催しました！

### ご報告



#### 【地域医療連携懇話会内容】

- 新居浜市医師会 中山会長ご挨拶
- 診療科紹介
  - ★池田外科部長より動画で説明
- 講演
  - ★「糖尿病療養について」中井内科部長
  - ★「外来における前立腺がん診療」  
山岡泌尿器科部長
- アンケート結果報告



11月13日に、地域の医療機関の先生方をお招きして、地域医療連携懇話会を開催しました。

寒さが厳しくなる中、多くの先生方にご参加いただきました。懇話会では、新居浜市医師会の中山会長よりご挨拶いただき、愛媛労災病院の診療科紹介と講演、アンケート調査結果の報告を行いました。

今後も継続して懇話会を開催し、地域の先生方のご意見を直接お聞きできる機会を大切にしたいと考えております。

### アンケート結果報告について

愛媛労災病院の地域連携について、地域の医療機関の先生方にアンケートに協力していただきました。重視度が高い項目より抜粋してご報告します。

項目	満足度
○紹介のしやすさ	80%
○受入窓口の対応の迅速度	74%
○標榜されている診療科についての情報提供	62%
○報告書が届くまでの時間	75%
○報告書の内容・わかりやすさ	81%
○紹介患者さんの最終報告	68%
○緊急時・時間外の受入体制	51%

先生方のご意見を踏まえて改善できるよう努めてまいります。今後とも是非ご意見をお寄せください。

今年もお世話になりました。  
来年もどうぞよろしくお願い致します。 AIRO

地域連携に係るお問い合わせは下記までお願いします。

愛媛労災病院 地域医療連携室

TEL : 0897-33-6199 FAX : 0897-33-6198



## 「外来における前立腺癌診療について」 山岡泌尿器科部長

表1は、部位別の男性癌罹患数と将来予測ですが、前立腺癌は2020年以降、男性の癌罹患数で第1位になると予想されています。

前立腺がん検診（PSA検診）については、信頼性の高い無作為化比較試験（RCT）により、進行癌や転移癌の罹患率や前立腺癌死亡率が低下することが証明されたとされており、これらの試験の中でも欧州での大規模RCT（ERSPC）では、検診群における前立腺癌死亡率を20%低下させた結果が示されています。

さらに、ERSPCにも参画しているスウェー

デン・イエテボリ地区のRCTでは、1人の前立腺癌死亡を減らすために必要な検診受験者数が293人、必要な癌診断症例数は12人であるとの試算が示されています。

表2は、「前立腺癌診療ガイドライン2012年版」で紹介されている、「住民検診・人間ドックにおける前立腺がん検診アルゴリズム」です。

住民検診、あるいは人間ドックにおける受診対象年齢と泌尿器科専門医紹介までの流れが記載されています。

前立腺がん検診の受診対象年齢は、住民検診では一般的には50歳からとされていますが、人間ドックなどの受益者負担形態での検診では、高危険度群の同定と将来のがん発見時のメリットを考え、40歳代でのPSA基礎値を確認することが望ましいとされています。

前立腺がん検診の受診対象年齢は、住民検診では一般的には50歳からとされていますが、人間ドックなどの受益者負担形態での検診では、高危険度群の同定と将来のがん発見時のメリットを考え、40歳代でのPSA基礎値を確認することが望ましいとされています。また、前立腺がん検診の受診間隔は、PSA値が0.0~1.0ng/mlの場合は3年ごと、PSA値が1.1ng/ml~基準値上限では毎年の検診受診が推奨されています。

注) ERSPC : European Randomized Study of Screening for Prostate Cancer

部位別年平均罹患数(男性)と将来予測

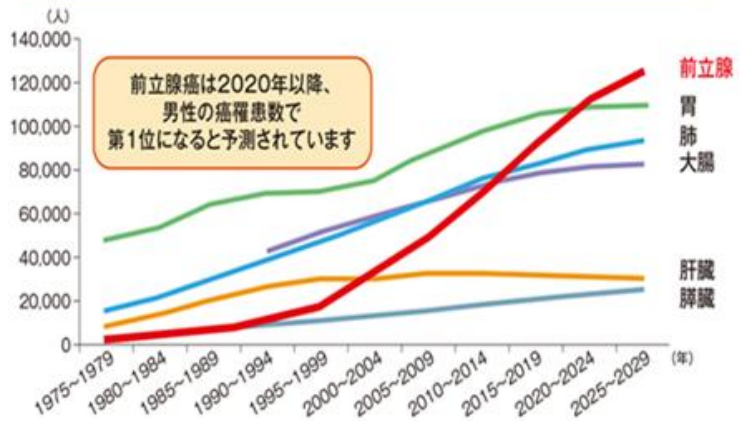


表1

表2

